

きんもくせい

「まずは信頼できる一人から」



静岡県養護教諭研究会 幹事 浅野慶子

私が新規採用の時に、養護教諭の先輩の車に乗せてもらったことがあります。その先輩は話すことが上手で、全職員の協力を得ながら学校全体で保健活動を活発に実践されている方でした。私が車に乗ってしばらくして、車のスピーカーからその先輩の声が流れていることに気がつきました。その頃、研究発表会で発表者になっていたその先輩は、通勤の時に、自分で原稿を録音したカセットテープを毎日聴き、どう話したら皆に自分の思いが伝わるかを考えているというのです。そして「私は、昔から話すことが苦手だから、どうしたら皆に耳を傾けてもらえるか、聞きながら考えているのよ。」とおっしゃいました。私は、その先輩が自分のことを話すのが苦手だと思っていること、そしてこんなに話が上手な方が思ってもみない努力をされていることにとっても驚きました。

その先輩の言葉を聞き、つい私はその先輩に自分の悩みを相談してしまいました。全体の場で要領よく話せないこと、自分の思いが保健室だけで学校全体のものにならないことなどです。するとその先輩は「伝える力は訓練と経験でなんとでもなるよ。」と励ましてくださいました。そして「全体の場で上手に話ができなくても、今ここで話をしているように、学校の中で信頼できる一人に自分の思いを伝えることができればきっと協力を得られるし、じわじわと学校全体へと伝わっていくよ。」と教えてくださいました。

それから私は、信頼できる一人に伝えることから始めています。私と同じように話をすることが得意ではないと思っている方、まずは信頼できる一人に伝えてみてはいかがでしょうか。

地区紹介

東豆地区



東豆地区は、伊豆半島の東に位置する熱海市と伊東市の小学校18校、中学校9校、会員数25名（2校は、小中兼務）で活動しています。各市で研究テーマを設定し研修を進めると共に、東豆学校保健研修会として年3回の研修会を開催しています。代表者会で報告、協議された内容や県教育委員会からの所管事項等を研修会で直接伝達することを通じて、全ての養護教諭が静岡県養護教諭研究会の一員であることを意識しながら研修を進めています。

また、毎年、秋には、講師を招請しての研修会を開催しています。今年度は鎌塚優子先生をお招きし「救急処置時の『問診技術』からとらえた養護教諭の専門性と独自性」について、演習を交えた講義を受け、保健室での対応のスキルアップにつなげることができました。今後もアンテナを高くし、養護教諭としての専門性、資質を高めるために研修を積んでいきたいと思っております。

冬季研修会報告



12月10日、「あざれあ」にて、冬季研修会が開催されました。午前、静岡大学教育学部准教授の鎌塚優子先生をお迎えし、「なぜ人は惹きつけられ、そして動くのかー養護教諭の専門力を支えるための伝える力ー」と題して講演をいただきました。講演に先立ち、開会直前に入った「静岡大学養護教育専攻設立」決定の知らせが鎌塚先生から伝えられ、冬季研当日の奇跡的な出来事に、会場全体が喜びと感動に包まれました。

午後は、12月に発刊された「養護教諭実践事例集 14」をもとに、5つの講座に分かれて情報発信についての研修を行いました。以下に鎌塚先生の講演と参加者の感想を紹介します。

講演 「なぜ人は惹きつけられ、そして動くのか」 ー養護教諭の専門力を支えるための伝える力ー

静岡大学教育学部准教授 鎌塚優子先生

養護教諭は、新しい知識や情報、養護教諭の視点を伝えていくための重要な立場にある。養護教諭の発信がうまく伝わるために必要とされることは、構成力・タイミング・経験・明確な根拠・表現力・想像力・創造力・戦略である。

人が動く3つの「カン」は、「危機感（大変なことが予測される）」「快感（面白い）」「価値観（何のために）」であり、それに「チームでの達成感」がプラスされて次への意欲につながる。

養護教諭は保健室で捉えた子供の心身の痛み、心の叫びの代弁者であり、気付きの専門家である。養護教諭が「伝える力」を持つことは、ただ自分の技術や技能を磨くのではなく、子供の心の痛みを代弁して、そこに手当てすることをプロデュースできる力を持つための一つの技術である。



講座1 「保健室からの情報発信」

助言者：県教育委員会 柿沼いずみ指導主事

データ検定の方法や見方がよくわかり、ただ平均、数値を見るだけではわからない深い部分を捉える必要性を感じた。

講座2 「組織活動による情報発信」

助言者：静岡市教育委員会 大澤京子指導主事

ワークショップの活動が充実しており、話し合いの中で課題解決のための様々な意見を聞き、来年度の活動を具体的に考えることができた。

講座3 「健康診断からの発信する学校保健活動」

助言者：県教育委員会 平野恵子指導主事

健康診断改訂のことをグループで話し合うことで課題等も見えてきて、プレゼンテーションの仕方、考え方について理解を深めることができた。

講座4 「日常の保健情報の発信」

助言者：浜松市教育委員会 田中公子主幹指導主事

「健康観察は命の確認」は、とてもインパクトのある言葉だと思った。自分でもう一度内容を整理して、わかりやすく伝えることが大切であると感じた。

講座5 「学校行事における学校保健活動」

助言者：県養護教諭研究会 青野雅和顧問校長

プレゼンテーションシートの順を追って書いていくだけで、職員会議等に向けて説得力の増したプレゼンテーションが作成できてよかった。

